



『小学生 SDGs キャンプ in 江田島！』



実施報告書

1、概要

近隣の海の様子や生き物の観察・調査から、しだいに瀬戸内海全体へとフィールドを広げ、様々な海の体験活動を通して、海の環境や気候問題、ごみ問題等といった「SDGs」について考える体験学習を行う。これらを通じ、「いま自分たちにできること」について考えさせ、環境保全・保護にむけて積極的・主体的に行動しようとする意欲・態度を養う。

- 協力 広島大学大学院統合生命科学研究科
 広島大学生物生産学部（附属練習船「豊潮丸」）
 江田島市大柿自然環境体験学習交流館「さとうみ科学館」
 特定非営利活動法人ひろしま NPO センター
 国立広島商船高等専門学校
- 期 日 第1回：令和6年 7月 31日（水）～ 8月 2日（金） 2泊3日
 第2回：令和6年 9月 28日（土）～ 9月 29日（日） 1泊2日
 第3回：令和6年 11月 2日（土）～ 11月 3日（日） 1泊2日 大雨警報のため中止
- 参加者 小学5・6年生 29名

2、活動内容

- 第1回 1日目 開講式・オリエンテーション、さとうみ科学館見学、SDGsについて知ろう（講話）、グループワーク
 2日目 「豊潮丸」体験乗船、ビーチコーミング in 荒代海岸、グループワーク
 3日目 ビーチクラフト、グループワーク
- 第2回 1日目 マリンウォッチング in 荒代海岸、ウミホタルの採集、グループワーク
 2日目 海洋環境学習（講話）、中間発表会
- 第3回 1日目 大雨警報のため中止
 2日目 大雨警報のため中止

3、参加者の声



漂着物が多いと海が汚れるだけでなく、それらを燃やすことによって二酸化炭素が増えて地球温暖化が進んでしまう。そうならないために、再利用できるものはしていきたい。

ビーチコーミングで拾った漂着物は捨てればごみだけどそれを使ってキーホルダーを作ることによって海の問題について考えることができた。



最初は汚い海という印象があったが、CODを測って、瀬戸内海の水質は思ったよりきれいでびっくりした。

アマモを増やすことで魚のすみかを守ることができるということがわかった。

